

9月10月11月の行事 などの開催案内

- 9月13日(土) カニ釣り in 近木川 受付 8/1～9/4
- 9月20日(土) ミニ企画展『沖縄の生きもの展』(公益財団法人乃村文化財団 助成) ～11月3日
- 9月28日(日) 近木川のアユを調べよう (EXPO 2025 共創チャレンジ) 受付 9/7～9/20
- 10月5日(日) 船で阪南二区人工干潟へ上陸 ～生きもの探検～ 受付 9/7～9/25
- 10月13日(月祝) カタツムリ調べ 岸和田市蜻蛉(とんぼ)池公園 貝岸合同イベント 受付 9/7～10/4
- 10月25日(土) 水みらいセンター見学とプランクトン観察
「全国豊かな海づくり大会」プレイベント 受付 10/1～10/20
- 11月2日(日) ワークショップ「苔テラリウムを作ってみよう」**かいつか家族の日関連行事** 受付 10/1～10/26
- 11月16日(日) 和泉葛城山 クリーンハイキングと自然観察会 **かいつか家族の日関連行事** 受付 11/1～11/12
- 11月23日(日) 「石を割って化石を取り出そう」(白亜紀の化石クリーニング) 白亜紀の地層から取り出した石を割ってクリーニングをしながら化石を取り出します。 小学校5年生～中学3年生のみ 受付 11/1～11/16
- 11月29日(土) 「貝塚の石の観察」近木川河口の石調べ 地形の成り立ちを考えよう 受付 11/1～11/23

※メールで行事申込の際は、住所(市町村名まで、番地以下は不要)参加される方の全員のお名前・年齢をご記入いただき、shizen.desk@icloud.com (このページの下メールアドレスのQRコードがあります)までお願いします。抽選による参加の可否につきましては、締め切り後の抽選の結果を代表の方にお知らせします。

第45回全国豊かな海づくり大会「魚庭(なにわ)の海おおさか大会」について

令和8年11月に漁業の振興と発展を目的として、全国豊かな海づくり大会が開催されます。今回の開催は大阪府で初めてとなります。この大会は、全国各地で毎年開かれている水産関係の国民的行事で、海の環境保全、水産資源の持続的利用、そして漁業・水産業の振興を目的としています。天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、全国から漁業者や研究者、一般市民が集い、海と人との関わりを広く共有する貴重な機会となります。大阪湾は都市に近接しつつも多様な生態系や漁場を育んできた海であり、環境保全と地域振興の両立が課題です。本大会は、大阪湾の魅力を全国に発信し、次世代へ「豊かな海」を引き継ぐ契機となることを期待されています。テーマは今後発表されます。自然遊学館は「6月二色の浜の稚魚放流」「10月水みらいセンター見学とプランクトン観察」以降もプレイベントを実施していきます。

令和8年3月22日(日)「自然遊学館調査報告会」 自然について調査や研究をされている方、調査報告会で発表してみませんか。自然遊学館では、調査や研究や発表までの準備の相談も受けています。昨年は小中学生人まで幅広い年齢層の方が発表されました。



行事申込メール



Instagram



YouTube



ホームページ



貝塚市立自然遊学館
Kaizuka City Museum of Natural History

〒597-0091 大阪府貝塚市二色3丁目26-1

TEL 072-431-8457 FAX 072-341-8458

自然遊学館だより



JAPAN MUSEUM

登録博物館

Vol.115 2025.9



青い斑紋の拡大写真

幸せを運ぶ瑠璃色の蜂 ～ナミルリモンハナバチ～ **貝塚市初記録** 体長 1.5cm
空の色、海の色、地球の色ともいえそうですが、青いバラ、青いケシなど、青色は生きもの色彩として、あまり多く存在しない色なのかもしれません。日本では宝石のラピスラズリを瑠璃とよんでいます。ナミルリモンハナバチというハナバチの仲間のハチがいます。黒い体に青い紋が入った綺麗なハナバチですが、その青い紋は鮮青色の羽状毛によって形成されています。これまで、**貝塚市にはないのではないかと**思われていましたが、2024年7月31日にせんごくの杜で、発見・採集することができました。

貴重な生薬として使われる冬虫夏草を、和泉葛城山山中で発見！



冬虫夏草（とうちゅうかそう）は、昆虫に寄生するキノコの種類で、正式には糸状菌（カビ）の仲間になります。冬には**昆虫の体内で菌糸を広げ、夏になるとその死骸から子実体を伸ばす**ことから、「冬は虫、夏は草」という意味の名がついています。主にチベット高原や中国西部など、標高 3,000～5,000メートルの高山地帯に分布しています。

最もよく知られる種は「オフィオコルディセプス・シネンシス (*Ophiocordyceps sinensis*)」で、これはコウモリガの幼虫に寄生します。秋に地中で越冬するガの幼虫に孢子が付着すると、菌糸が体内に侵入し、冬の間じっくりと体を蝕んでいきます。やがて宿主の幼虫は死亡し、夏になるとその頭部から子実体が地表に現れます。この子実体が、冬虫夏草として薬用などに利用されます。

寄生される生物は種類によって異なり、ガの幼虫だけでなく、セミ、クモ、アリ、カメムシなど、さまざまな昆虫が対象です。日本にもセミタケやクモタケなど、冬虫夏草の仲間が自然界に存在しています。特にアリに寄生する種類では、菌がアリを操り、高い場所へ移動させた後に殺し、そこから孢子をまき散らすという巧妙な繁殖戦略が知られています。このように冬虫夏草は、寄生と繁殖を繰り返すことで高山の厳しい自然環境に適応してきた独特の生態をもち、菌と昆虫の進化の関係を知らなくても重要な存在です。（写真はツノカメムシ属の一種に寄生した冬虫夏草）

鳴く虫発見 ～クツワムシ～



日本人は昔から鳴く虫の声を楽しんできました。「虫のこえ」の2番のAメロにも歌われているクツワムシ。しかし、マツムシもクツワムシも、都市部ではあまりみかけなくなってしまっています。

クツワムシは、これまで貝塚市から見つけることができていなかったのも、みなさんがよく知っている「ガチャガチャガチャ」という鳴き声を手掛かりに、ずっと探し続けてきました。

時間や気温などの気象条件によって、鳴かなくなる時もあります。しかも、大きな音に聞こえるクツワムシの鳴き声は、クサキリの仲間やウマオイの仲間の鳴き声のように響かない音のようです。そのため、新たな場所で見つけるのは想像以上に大変です。

やっと、その時が来ました。窓を開けて、車をゆっくりと走らせながら探していると、「鳴いてる！！」2023年9月20日に貝塚市木積にて、念願のクツワムシを発見・採集することができました。写真は同年岸和田市にて採集した個体です。